ga-zine

アガジン

SAMPLE

ga-risk
Entertainment

Aga-zine アガジン

SAMPLE

P3
冨坂の売れた日のためのエッセイ練習
▼スパイスカレーとデジタルカメラ

P6
矢吹・冨坂・淺越の
シチュエーションコメディレクトリ

P8
なにを書くかが問題小説(浅越岳人)
▼『キックアウト・マイダッド』#1

P9
古谷蓮の生きていきま書☆

P10
榎並夕起のアイスダイアリー
▼かじるバターアイス

P12
つわまん。(津和野諒)

P13
アガリスク情報発信局

P16
ただただとりとめのない話。(伊藤圭太)
▼いぶりがっこタルタル

冨坂の
売れた日のためのエッセイ練習

（1）スパイスカレーとデジタルカメラ

一年ほど前、デジタルカメラを買った。

SONY の RX100 という機種の初代のモデルだ。一眼レフのように大きく立派ではない、「コンデジ（コンパクトデジタルカメラ）」と言われる分類のもので、にもかかわらずセンサーサイズが大きいやら何やらで、一眼レフみたいな写真が撮れるという評判の商品だ。同じ系列のものが RX100M2, M3, M4. . . M7 と出続けているが、9 年前に発売した初代がまだ継続して売られてるのが特徴。それだけ名機ってことなのだろう。

買って以来、ちょこちょこと写真を撮ってきた。そんな中で、薄々思っていたことがある。いや、心のどこかでは気づきながらも、努めてそれを認めないようにしていた、なんなら今も認めきれてはいないこと。

それは「…スマホの方が綺麗じゃね？」ということだ。

いや、原理的にはそんなはずはない。なんたってセンサーサイズが 1 インチ、スマホの何倍もあるわけで。レンズはカール・ツァイスなわけで。みんな画素数画素数いうけれど、カメラってのは実際のところセンサーサイズとレンズが物を言う機械であって…。

そんな風に色々な理屈で反論しにかかるが、写真をパッと見たときの印象は拭えない。

いや、パッと見の印象こそスマホの方がいいかもしれないけど、大きい画面で等倍で表示してみたら話は別よ？　そもそも明るくしたり鮮やかにすりゃいいってもんじゃなくて、写真ってのは…。

と、ほら。またこんな風に理屈鬼が反論にかかる。なぜなら、スマホに負けるわけにはいかないのだ。だって写真を撮る専用のアイテムなんだもの。それをわざわざ買ったんだもの。自分の選択を誤ちにしないためにも、RX100愛好家のブログを、価格.comのレビューを見漁っては理論武装する日々だ。

この感覚、前にも味わったことがある。そう、スパイスカレーだ。

私は、中学生時代から、ルーを使わずにスパイスを使ってカレーを作る趣味がある。厳密に言えば「スパイスカレー」と「ルーではなくスパイスから作るカレー」は違うのだけど、ここでは便宜上どちらも「スパイスカレー」という呼称で進めさせてもらう（めんどくせぇなぁおい）。

中学生にしてルーを使わずに複数のスパイスでカレーを作るのは珍しがられたし、それを受けて自身も鼻が高かったが、あるとき気づいたことがある。いや、気づいていたが認めないようにしていたこと。

それは「…ルーの方が美味しくね？」というものだ。そう！　そこなんですよ！　デジタルカメラと根っこが一緒！

本来、「スパイスから作る」なんてのは手段のはずだ。そっちの方が美味しいからやる、いや美味しいならやるべき行為だ。ルーの方が美味しいならルーで作れよ。スマホの方が見栄えがいいならスマホで撮れよ。

なのに認められない。認めるわけにはいかない。カレーの美味しさより、写真の見栄えより「ルーではなくスパイスから作ること」や「センサーサイズが大きいこと」というこだわりが目的化してしまっている。

これは危険だ。こうして、こだわり・屁理屈・頑固おじさんが生まれてしまうのだろう。いや、中学生時分からそうなんだから、おじさんとかじゃなく性なのだろう。うん、より危険じゃないか。

しかしながら。結果の美味しさだけでスパイスを捨ててルーを選んでしまっていいのだろうか？　満足度や美味しさの絶対値はルーの方が高くても、スパイスで作ったカレーはルーとは違うものになる。最近のスマホで撮った写真とRX100で撮った写真は違うものになる。つまり多様性だ。いや、なんなら、結果が同じでもいいのかもしれない。「作るプロセスが違う」それ自体が多様性なんじゃないだろうか。

そんなことを考えながら、シチュエーションコメディの執筆に戻る。私が作っているシチュエーションコメディというジャンルは、ギャグやおかしな言動ではなく、登場人物の自然な感情や真剣な言動で笑いを取るタイプのコメディのことだ。

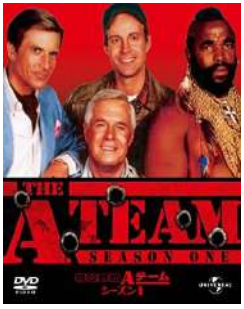
…おや？　「ギャグやおかしな言動ではなく、登場人物の自然な感情や真剣な言動で笑いを取る」？

いかん。いかんいかん。気づいてはいけない気がする疑問を、頭の中でかき消した。

矢吹・冨坂・淺越の シチュエーションコメディレクトリ 1回

このコーナーでは、矢吹ジャンプ・冨坂友・淺越岳人が、ここ2週間ほどの間に見たコメディ作品についてレビューしていきます。

矢吹ジャンプ



『特攻野郎Aチーム』（TVドラマ）

1980年代中期のアメリカのTVドラマですね。一話完結のアクション物ですが、キャラクターや掛け合いが笑えるコメディタッチ。フェイスマンのハッタリかましての備品調達、モンキーの奇人っぷり、飛行機嫌いのコングを飛行機に乗せるやり取りなどお約束の部分が毎度面白い。ウィットに富んだ掛け合いもよい。回毎に手近な日用品とかで武器や罠を作るのも楽しいですね。曲も盛り上がる!

冨坂友

『EXIT』（映画）

2019年に韓国で大ヒットした、高層ビルを伝って毒ガスから逃げるパニック・スリラーでありヒーローものなんだけど、ここでは「コメディ」として挙げさせてもらいたい。
序盤30分くらいをコメディに徹して登場人物に愛着を持たせることでスリルを煽り、かつラブとコメディがピンチを救う快作。それが作中の合理的なアクションとして示されているのが真っ当すぎてブチ上がる。冴えない主人公とマドンナと昔取った杵柄とヒーロー論と元気玉を100分に詰め込んだ、みんな好きなやつ。

浅越岳人

	『ショーン・オブ・ザ・デッド』（映画）
	サイモン・ペッグ×ニック・フロスト×エドガー・ライト×ナイラ・パークによる、いわゆる「The Three Flavours Cornetto Trilogy（血とアイスクリーム三部作）」の1作目。ダメ男コメディがロメロ的に浸食されていく、、、、けどやはりダラダラ変わらない男達の日常。改めてこのご時世に観ると、アフター・ゾンビというか「ウィズ・ゾンビ」とも言える「新しい生活様式」を提示するオチが印象的。

やけに夕焼けのオレンジが強かったことを覚えている。おれは西日の眩しさに耐えながら、大急ぎで下校した。友人との何気ない会話のなか、偶然知った父の秘密。大きな驚きとともに、なんだそういうことだったのか、という納得があった。いつも見ている父の仕事風景、そのところどころで感じていた奇妙さ。父本人にも、母にもそれを伝えたことはない。ただ、ずっと漂っていた違和感の正体を掴んだような気がした。

帰宅すると、やはり父は家にいた。その周りにはビールの缶がいくつも転がっていた。父には「時間割」がなかった。とくに説明なく数週間家を開け、突然ふらっと戻ってくると今度は何日も家にいる。おれたち子どもにも、周りの大人にもある生活のリズムとかパターンとかが、この人には存在しないらしい。おれはそれに、うらやましいと同時に、そこはかとない嫌悪を感じていた気がする。まあ父に関してロクな思い出がないから、これが修正主義的な記憶であることを、おれは否定しない。

おれは「ただいま」もそこそこに、仕入れたばかりの知識を、当人に披露した。

「プロレスって、ヤオチョーなんでしょ」

ここでおれの記憶は途切れる。身長一七八センチ・体重一〇三キロ。当時所属していた団体でも有数の喧嘩屋レスラーの張り手を受けたおれの身体は、二メートルほど吹き飛んで実家の壁に激突したらしい。「ドラゴンボールみたいだった」というのは母の談だが、小学生のわが子が救急搬送された事件にしては、なんとも気の抜けたな目撃証言だ。

とにかく、その一件がきっかけとなり、わが福島家は崩壊した。両親は離婚、それから父・福島友信とは一度も直接顔を合わせていない。（つづく）

アガリスク
入って楽しい
アガリスク
古谷蓮

榎並夕起 の ICE DIARY

第１回「かじるバターアイス」

赤城乳業のかじるバターアイス。

2021 年 2 月 25 日 17 時 50 分に食べた。

ちなみに『TOTYO2020』のゲネプロと本番の間。

少し前に話題になったこの子。

ナメていた自分を殴りたいくらいバターだった。

甘すぎず、しっかりバター。でも後味さわやか。

お菓子を作るときにいつも味見したくなる、バターとお砂糖を混ぜたやつの味がする。

バターと砂糖の段階で食べたことはないから気がするってだけなんだけど。

とにかく美味しすぎてリピートしたかったけど、新宿御苑前のファミリーマートで出会って以降、一度も見かけていないので食べられず。

きっとバズりすぎて売ってないんだろうな。

てか期間限定だった説。どちらにしてもかなしい。

つわ

壮大な校長

まん。

アガリスク情報発信局

アガリスクの最新情報をまとめてお届けします！

【STAGE】

▼アガリスクエンターテイメント
第31回公演

『なかなか失われない30年』

2024年4月27日(土)～5月6日(月)
新宿シアタートップス

アガリスクエンターテイメントの第31回公演は、移り変わりの激しい新宿の雑居ビルを舞台に、平成から令和のさまざまな場面を一部屋にムリヤリ押し込んで総括する、時間混在コメディです！

4/27(土)	4/28(日)	4/29(月)	4/30(火)	5/1(水)	5/2(木)	5/3(金)	5/4(土)	5/5(日)	5/6(月)
	13:00	13:00	休演日		14:00	13:00	13:00	13:00	14:00
19:00	18:00	18:00		19:00		18:00	18:00	18:00	

2024年2月24日(土)12:00～チケット発売！
富豪席(特典あり)▶8,000円　前半一般席(4/27～29)▶4,500円
後半一般席(5/1～5/6)▶5,000円　大貧民席▶3,000円
高校生以下▶1,000円

詳しくは特設ページをご確認ください。

【RADIO】

▼**アガリスクRADIO企画モリエンテスラジオ**

公式YouTubeチャンネルにて、毎週金曜夜配信！

第1金曜は「古谷蓮のこうしちゃおれん！」
第2金曜は「鹿島ゆきこのZERO1女子のかしましらじお。」
第3金曜は「矢吹・冨坂・淺越のシチュエーションコメディスカッション」
第4金曜は「榎並夕起のNow's Playlist」※不定期

▽**古谷蓮**の こうしちゃおれん！

これと言ったテーマはない、古谷蓮がただただ人と話したい配信。

▽**鹿島ゆきこ**の

ZERO1女子のかしましらじお。

小劇場の片隅でプロレスリングZERO1を勝手に応援しているラジオです。(鹿島・淺越出演)。

▽**矢吹・冨坂・淺越**の

シチュエーションコメディスカッション

演劇について、コメディについて、
最近思っていることをわりと遠慮せずに喋る配信番組。

▽**榎並夕起**のNow's Playlist

榎並夕起がおすすめの曲や今のプレイリストを紹介するラジオです。不定期配信ですが、弾き語りコーナーもあるかもしれません！

【OTHERS/MEDIA】

▼前田出演！『ボツネタラジオ』

大阪出身ハガキ職人世田谷のやせがたさんと、ハガキ職人によるラジオ好きな方のためのラジオ。メッセージはbotunetaradio@gmail.comまで！
毎月第3金曜日更新です。ポッドキャストもあります！

【GOODS/STREAMING】

▼アガリスクSHOPでは多数のグッズを取り揃えております。
『令和5年の廃刀令』Blu-rayも発売中！

▼観劇三昧で過去作品配信中！
『かげきはたちのいるところ』舞台版・ドラマ版のほか、過去の上演作品も配信中です！

▼公式YouTubeチャンネルあります！
過去の上演作品や、映像作品、
様々な企画のアーカイブもあります！

ただただとりとめのない話。

伊藤 圭太

『いぶりがっこタルタル』

KALDIがあると、つい寄ってしまう。

行くたびに気になるもの、惹かれるものに遭遇する。しかし、それを片っ端から買っていたらいくらクレジットの限度額があっても足りないので、一旦お別れして、それでも忘れられないモノだけ買うようにしている。

そうして、こないだ購入したのが、「いぶりがっこのタルタルソース」。これ以上に魅力的かつそそられる複合語が、他にこの世に存在するだろうか。最近では自分の役名すらすぐに忘れてしまう私だが、この商品名は一度目にした瞬間、海馬深くに刻まれた。

いぶりがっこタルタルを購入した私は、すぐに使い

たくてたまらなくなり、帰りにアジフライを買った。近所のゆで太郎がもつ煮も始めて、「ゆで太郎もつ次郎」というこちらもなかなかパンチのある複合語となっていたのだが、ここでテイクアウトした。

家に着いてアジフライの入ったビニール袋の中を見ると、真四角のパックからアジフライの尻尾だけがはみ出していて、そのスキマからビニール袋中に揚げたパン粉が散乱しており、大きさ的にもどうせアジフライにしか使わないんだろうから、アジフライに合わせた形か大きさのパックを用意すればいいじゃないかと思いながら、パン粉まみれのパックを取り出しアジフライにいぶりがっこタルタルをぶっかけた。

ある種想像通りの、しかしこれを期待していたんだ！という感じの旨さであったが、いぶりがっこタルタルのために、もつ煮がウリのそば屋で買ったアジフライを食べるという主客転倒とも言える行為に、なんだか、アジとゆで太郎もつ次郎には申し訳なかった。